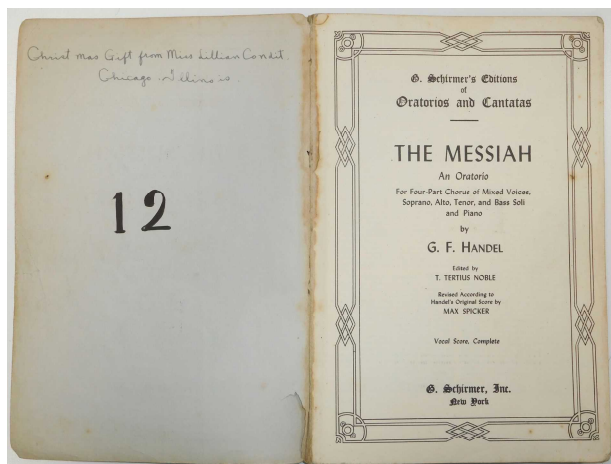


## 広島流川教会と「メサイア」

1945年8月6日、広島流川教会は、爆心地から約800mで被爆しました。1947年5月、谷本清牧師のもとに、米国シカゴの高校音楽教師であったリリアン・コンディットさんから葉書が届きました。彼女は、太平洋戦争以前、谷本牧師の留学時代の友人でした。「あなたのお役に立つようなものは何かあるかしら。お送りしますから言ってください。」との申し出に、谷本牧師は教会員である太田司朗先生(音楽教師・声楽家)に相談し「メサイアの楽譜を送ってほしい」と答えました。

その年の10月、ヘンデル「メサイア」の楽譜30冊が届き、これを機に太田先生と谷本牧師は聖歌隊を組織しました。そして、被爆し会堂修復中の広島流川教会で12月21日(日)クリスマス礼拝において最初のメサイアが歌われました。



「クリスマス・ギフト from リリアンコンディット」のサインと通し番号「12」入りの楽譜

続いて24日、広島市基督教総合会主催で、広島流川教会において第2回市民クリスマスが行われ、聖歌隊が「メサイア」の合唱を抜粋で演奏しました。その模様は、クリスマス

特別番組『クリスマス音楽礼拝』として、NHKラジオで生放送されました。

それ以来、今日まで被爆地ヒロシマで「メサイア」は歌い継がれています。

最後に以下の文を引用します。「彼らは教会という組織に属していたものの、その組織のためではなく一貫してヒロシマの地のために、そして市民のために音楽を奏で続けた。また、当時のヒロシマが潤され、さらに今も広島でなお恒例としてクリスマス時季に演奏され続けている《メサイア》には、アメリカ人と日本人の友愛がその根底にはあったということも特筆すべきことであろう。」※

2020年は、新型コロナウイルスの世界的流行の中、広島流川教会の『アドヴェント音楽礼拝「メサイア」』を中止しました。しかし、わたしたちは広島で、広島流川教会でメサイアが歌い継がれてきた意味をおぼえ、平和への祈りをつむぎながら12月13日の礼拝を守りたいと思います。

※『広島流川教会における復興と音楽との歩み、及びその原点—谷本清・太田司朗を中心として—』光平有希より

2020年12月13日 広島流川教会 牧師 向井希夫・教会役員会・教会音楽主事